



第44回

葉山メダカの会

「今日は水が温かくていいね」「メダカのために頑張ろうよ」…。立春が過ぎ、ポカポカ陽気となった先月半ば、長柄地区の山のおもとに、『葉山メダカの会』の皆さんが、長くつ姿で集合。メダカを育て、繁殖させるための小さな人工池づくりを汗を流しました。

葉山メダカの会が誕生したのは、平成十四年の六月。その前年に、葉山町生きがい事業団の人たちが町内の人工池の清掃作業中に、葉山では絶滅したと思われるメダカの群れを発見したのがきっかけでした。

この貴重なメダカを守り、育てようと、旗揚げしたばかりの会では早速、役場の前にある「花の木公園」の池を借り、菖蒲やホテイ草などを植えて、メダカを放流。大量の稚魚が生まれ、メダカは順調に増えています。

DNA鑑定で、メダカは葉山の周辺



います。

メダカ好きが次々と集まり、現在の会員は約二十人。大学の先生や元校長先生、編集者、会社役員など顔ぶれは多彩です。メダカを増やすため、会員が自宅で飼育する一方、昨秋は町内の四小学校に飼育セット付きでメダカを贈呈しました。また役場のロビーに水槽を置き、メダカの展示も行っています。

さらに、昨年からは長柄地区で第一号の繁殖池づくりに着手。これもほぼ完成し、五月頃にはメダカを放流する予定です。「この池を起点に、どんどんメダカを増やしていきたい」と会長

の武田史朗さん。その願いが実り、葉山にメダカの元気な姿が戻って来る日は、もう遠くないかも知れません。



に生息する在来種に近いことも分かり、会員たちは「みんなの手でさらに繁殖に努め、葉山を昔のようなメダカの里」と張り切っています。

葉山歌壇俳壇

短歌

◎火の島を追はれし鳥か赤こつこ葉山の森に人知れず鳴く
(評) 噴火の三宅島を逃れ密かに葉山に棲むのか、その名も、キヨロンと鳴く声も可愛らしい。作者の安堵と優しさの伝わる歌。私も声を聴いてみたい。

岡田 保子 選

差し潮の青く透きたる水底に群めかす権璫は玉となりつつ
雲一つなき冬の空ジェット機は光点となり大空わたる
ファックスの微かな音に振りむけば遠き妹の懐かしき文字
ベトナムのシルクのバッグは萌黄色小花の刺繍のやさしく香る
女生徒の白きマフラー清々し語らふ友ら吐く息白く
さしきしと白菜漬くる体力の上半身に集まりてくる
寒空に号令ひびき七色の放水訓練出初式の朝
六十年連れ添ひし妻いま天に召され逝きしよ人の世はかなき
泥濘の足跡凍る公園の桜の花芽かすかに出する

俳句 沼田葉櫻子 選

俳句 浅井 一志 選

◎純白の富士真向ひに若布干す 田中 英雄
(評) 若布は昆布に似た海藻で二月頃から刈りとられる。天然と養殖のものがあるが最近では後者が多いようだ。真っ白な雪の富士山を背景にして吊るし干された若布の美しさは、海のおいと共に早春に見る風物詩とも言えるだろう。

田舎より届きし香りよもぎ餅 確井美津子
(評) 蓬の葉を茹でたものに餅や糝粉をこねて搗き込み餡を包んだものが蓬餅である。「届きし香り」は田舎から送って来たものと同解したい。ふるさとに母の手作りかもしれない。そのいろ・におい・味すべてが本物の草餅なのである。

◎酒好きの夫の忌日や目刺焼く 矢嶋弥寿子
(評) たまたま目刺を焼いていた時だろう。それが亡き夫の忌日であったという。夫は本当に酒好きであったなあとと思う。常日頃からなにかと一杯やっていたが、ことに目刺は好物であったに違いない。いまは亡き人への回想。身近な故人に対する思いをよく一句にまとめているといえよう。

*鶯の笛透きて一湾冬に入る 新井かね子
*臘梅のうつむき咲きし画家旧居
白一点鷺身じろがぬ冬景色 石川 光子
初雪のわずかに残る路地の影 片山 久女
七草の香り閉じ込め粥する 渡部 哲也

*鶯の笛透きて一湾冬に入る 新井かね子
*臘梅のうつむき咲きし画家旧居 高梨 久子
風花の舞ふな永久に旅立ちぬ 石川 光子
白鷺の身じろぎもなき冬景色 木下 米子
片山 久女

締切は、毎月3日(消印有効)。はがき1枚に、一人3首か3句まで(当季雑詠)、住所、氏名、電話番号を書いて、企画課「葉山歌壇俳壇係」まで

子の心、親しらず？



2月13日に役場4階大会議室で人権を考える集いが行われました。落語家の7代目桂才賀さんによる講演は、「どう子どもと向き合うか?」。大人と子どもが本音でぶつかり合うことの大切さが訴えられました。



地域と歩む郵政懇話会



1月20日に湘南国際村で「葉山町地域と歩む郵政懇話会」が開催されました。これは郵便局が、地域の発展を願い、地域活性化のための施策について検討するものです。

私たちの文化財を守るために



昭和24年1月26日は、法隆寺金堂壁画が火災により焼失した日です。文化財防火運動の一環として、1月25日に上山口の新善光寺で防火訓練が行われました。私たちの文化財を火災等から守りましょう。



◆ヒッポファミリークラブ説明会

どなたでも多言語体験できるキャンペーンを実施中です。3月4日(木)10時~12時 新逗子駅そば興和不動産ビル 図 ☎876-3248 新井

◆小児科医から教わる食と健康

「医者いらずクスリいらずの健康法」「自然流食育のすすめ」などの著者、真弓定夫先生の講演会。3月7日(日)13時30分~16時30分 逗子市図書館ホール 1,000円 図 ☎0467-23-5866天羽(あまは・講演会事務局)

◆ノンシュガーのおやつ作りと絵本の読み聞かせ会

子どもと一緒に自然でおいしいおやつを作ったり、わらべうたで遊び、素敵なお話に耳を傾けてみませんか。3月9日(火)0~2歳児・3月11日(木)2~4歳児、両日10時~12時 1,000円 図 ☎080-3089-2217新井

◆三浦澄子さんによる「伊東祐親と葉山」

近著「吾妻鏡の風景」を出された三浦澄子さんから旗立山で最期をとげたという伊東祐親のお話をお聞かせします。3月11日(木)13時30分~15時30分 一色小学校新館研修室 300円 図 ☎875-6467振原(葉山町文化財研究会)

◆定例ボランティア活動

どなたでもどうぞ。3月13日(土)9時30分

から 老人ホーム「葉山清寿苑」 図 ☎875-6734大熊(ボランティア連絡協議会)

◆気功体操の体験教室

ゆったりとした音楽をバックに心と身体をほぐしましょう。3月14日(日)13時~16時 福祉文化会館大会議室 1,000円 先着20人 図 ☎875-5490長田(吉宮気功体操協会)

◆葉山町学生書道展

幼・小・中学生の掛け軸仕立ての毛筆作品を鑑賞しませんか。3月18日(木)~20日(土)10時~16時(20日のみ15時) 町立図書館大ホール 図 ☎875-3489三嶽(みたけ・葉山町書道協会)

◆横須賀大津高校吹奏楽部 第24回定期演奏会

曲目:マスク、フィンランディアほか。3月21日(日)18時開演 横須賀市文化会館大ホール 400円 図 ☎836-0281水沼(横須賀大津高校吹奏楽部)

◆第24回春休みスキーツアー

3月28日(日)~31日(水)草津国際スキー場 小学生32,000円 中学生以上37,000円(町宿泊助成後の自己負担額。宿泊・交通・リフト・保険料等) 貸しスキー(板・靴・ストック) 料金は全日間5,000円(小学生4,000円) 図 ☎875-8438森(葉山スキー同好会)

◆逗葉高校吹奏楽部定期演奏会

第18回定期演奏会を開催します。皆さまお誘い合わせの上、ぜひご来場ください。3月29日(月)18時30分開演 横須賀市はまゆう会館 図 ☎873-7322逗葉高校

◆第7回さくら祭り

テーマは「地域は人と人との結び付き、ひ

ろげよう地域住民交流の輪」。地元商店会の出店、フリーマーケット、ゲームコーナー、独居老人の「いきいきサロン」。4月4日(日)10時~13時 堀内会館及び児童遊園地内特設会場 図 ☎875-2041鈴木(堀内町内会連合会)

◆看護技術実技演習

基礎看護技術~筋肉内注射・採血・点滴静脈内注射 4月21日(水)10時~16時 県ナースセンター研修室 県内在住の看護職者 2,000円 往復ハガキに4月看護技術実技演習・住所・氏名・年齢・電話番号・所持免許・就労状況を書いて3月28日(水)必着 図 ☎045-263-2101県ナースセンター(横浜市中央区富士見町3-1)

◆第12回葉山芸術祭茶会

お琴の演奏もあります。4月24日(土)10時~14時 葉山しおさい公園 2,000円(弁当・入園料含む)・当日1,000円(弁当なし) 締切3月末日 図 ☎875-8710吉村

◆ゆったり、のんびり草津温泉2泊3日バスの旅 チャリティー旅行会

特典多数、オプションツアーあり。5月6日(木)7時30分~8日(土)草津温泉ホテル高松 23,800円 申込 ☎875-3569ワタナベ 図 ☎875-1001中村(さといもクラブ葉山)

◆英語勉強会

基礎(基礎から勉強したい方)、初級、中級(英検2級前後の方)の各コース。少人数制(7人まで) 月4回2,000円 図 ☎877-4260坂口(英語勉強会)

掲載を希望するときには、掲載したい月の前月3日までに、企画課(☎内線333)へお電話ください。営利目的のもの、宗教・政治色の強いものは掲載できません。

町長と語る

トーク広場

第26回

安全な葉山牛を育てて40年 努力が実り、高級牛肉の仲間入り

町長 皆さんのお骨折りで、葉山牛は立派なブランド品になりました。そもそも四〇年前に、なぜ肉牛の生産を始められたのですか。

石井(義) 私も三留さんも、最初は牛乳を生産する酪農が中心でした。ところが、昭和三〇年代後半からの高度成長が追い風になり、日本人の牛肉消費量が大きく伸び始めた。それがきっかけで、昭和四〇年ころに初めて肉牛を導入しました。

三留 前年の東京五輪の影響もあったんですよ。「オリンピックで外国人観光客が増え、牛肉需要が急増する。これからは肉牛の時代だ」なんて言われ、畜産への期待が高まりましたから。

石井(義) もっとも、初めは酪農と肉牛の二本立て。肉牛に一本化したのは十年くらい後のことなんです。

町長 おいしい肉牛を育てるために、ご苦労も多かったんじゃないですか。

三留 文字通りゼロからの出発でしょ。毎日が勉強でしたね。それで、とにかく日本一の肉牛の生産現場をこの目で見ようと、開通して間もない東海道新幹線で松阪へも視察に行きました。

石井(義) 有名なお店でスキ焼きを食べたら

上・中・下と三種類の肉が出てきた。「上は無理でも、中なら葉山でも作れる」って自信がわきましたよ(笑い)。

町長 石井裕一さんは若手ですが、肉牛の肥育はいつ頃から始めたの？

石井(裕) 二〇歳の時だから八年前ですね。研修を終えて帰ったら、父から「あとは任せろ」と言われ、肉牛生産を引き継ぎました。今は全部で五〇頭近い牛の面倒をしています。

町長 いい肉牛を育てるために、どんな点に気をつけていますか。

石井(裕) まず健康ですね。牛が病気になったら太らないし、肉質にも影響しますから。そのため、牛舎は常に清潔に保ち、牛が快適に過ごせる環境づくりを心がけています。

町長 葉山牛は大変おいしいと評判です。その秘訣は何でしょう？

石井(義) 葉山では昔から麦やトウモロコシ、フスマなどを混ぜて発酵させたエサを与えており、これがいいようです。

三留 それとオカラやビールカスもね。よそとはエサが違います。



三留武さん

町長 自由化やO157、BSE問題など牛肉の生産者は何度も危機に見舞われてきました。特にBSEの時は大変だったのでは？

石井(義) 牛が出荷できない、価格も下がるで大打撃でした。でも、ビッグ・ハヤ

マ・マーケットでの葉山牛の無料試食会に大勢の参加があり、心強く感じました。

三留 消費者との信頼関係。それが何より大切なんですよ。

石井(義) そう。会場に「小学生のころ、石井さんの牛を見学に行った」という奥さんがいて、すごうれしかったですよ。葉山では生産者と消費者の交流に力を入れる一方、情報公開も積極的に進めて、牛の育て方をオープンにしている。こうした地道な努力が葉山牛に対する信頼を生んでいるんじゃないかな。

町長 その通りですよ。さて、最後に

これからの夢を聞かせてください。

三留 夢なら我々よりも、若い裕ちゃんの方がいいんじゃないの(笑い)。

石井(裕) やはり規模の拡大かな。牛の数も倍くらいに増やして、もっとおいしい肉牛を育てたいですね。

町長 松阪牛に負けない牛づくりをめざして、ぜひ頑張ってください。



石井義房さん(左)と石井裕一さん

「葉山でもおいしい牛肉を作ろう」と、肉牛の生産が始まって四〇年近く。BSE(牛海綿状脳症)問題など幾多の困難にもめげず、丹精込めて肉牛の肥育に取り組んできた生産者の皆さんの努力が実り、今や「葉山牛」は霜降りの高級牛肉として、消費者の人気を呼んでいます。

そこで、今回は肉牛生産の先駆者である石井義房さん、三留武さんのお二人と、若手生産者の石井裕一さんをお招きして、葉山牛をブランド牛に育て上げるまでの苦労話やこれからの夢などを伺いました。